

# パラオ人が見た 日本のルーツ

「皆さんにお願いがあります。靖國神社にお参りして下さい」かつて日本軍と共に戦ったパラオの戦友からのメッセージ

パラオ共和国政府顧問

イナボ・イナボさん



## Mr. Inabo Inabo

1925年生まれ。コロール州酋長。政府顧問。大東亜戦争ではパラオ挺身隊の一員としてニューギニア戦線で戦い、その後パラオ本島で斬り込み隊の分隊長として戦った。戦後、幾度か来日。終戦50周年の今年は7月には名古屋、8月には福岡、そして靖國神社の各式典で提言。日本の英霊への思いを語る姿は聴衆に深い感銘を与えた。

《パラオ共和国は昨年十月にアメリカの委任統治から独立した最も新しい独立国。フィリピン・ミンダナオ島の真東七〇〇キロの南洋群島の中に位置し、人口一万五千人。第一次大戦後は日本の委任統治下におかれ、大東亜戦争末期には、飛行場を擁したペリリュー、アンガウルの両島が日米の激戦地となり、現地の人々はパラオ挺身隊を組織して日本軍と共に戦った。国旗は太平洋の青地に月の黄色の丸をかたどった月章旗。大統領も日系という親日国だ。そのパラオから終戦五十周年の式典に参加のため、来日されたイナボさんに靖國神社の式典での提言の後、お話しを伺った。》

## INABO INABO ニューン

イナボ 日本には大切なものが四つあります。天皇陛下と靖國神社と富士山と桜の花です。

—— そう思われるようになったきっかけは何ですか。

イナボ 最初はあるアメリカ人から聞きました。彼がいうには日本は小さな国だけれども、ルーツ根つこがあるから強い。それは天皇陛下、富士山、桜だと。それがアメリカにはないというわけなんです。そこで私は「あなた

はもうひとつとても大事なものを忘れていますが、それは靖國神社です」と答えました。日本は慰霊の国であります。私は、ペリリュー島奪回作戦のとき、斬り込み隊の分隊長として日本軍と一緒に戦いました。私の分隊は弾薬を背負って、敵の戦車の下に肉弾で飛び込む役目でした。そういう斬り込み隊或いは特攻隊をやれる国は他にないですよ。

私の会社の従業員にフィリピン人がいて、「日本はものすごく強い国だ。日本人にはちゃんとしたルーツがある。だから良い人間でもあるけど、危ない人間でもある」という。なぜ?とときど、「彼らは戦争の時に飛行機に片道のカソリンしか積んでいかなかった」という。日本人の戦いぶりはアジアの人々は皆知っているんですよ。それで日本を畏れ、尊敬しているわけです。—— アメリカ占領軍も日本の畏怖すべきルーツとして皇室と神社とを徹底して攻撃しましたね。

イナボ そう、だから逆にそれがあつた限り日本は倒れない。普通の国の大統領だつたら、短くても四年。ところが、あなた方の総理大臣は一ヶ月とか二ヶ月とかね(笑)。それでも日本人が安心していられるのは、天皇陛下がおられるからですよ。私は昭和天皇のご病氣を知って、娘たちを連れて昭和六十三年四月二十九日、宮城に行きました。

# 第九回戦没者追悼中央国民集会

その時が昭和天皇の最後の天長節となりました。天皇陛下がおられて、靖国神社があるからこそ日本は尊く、外国からも尊敬され、強い国となっています。

—— ツ、日本、アメリカと四つの国に統治

BRUNO-JIT

—— パラオは歴史上スペイン、ドイ



「戦争の話はつらい話です」と言われるイナボさんは戦死した日本人の戦友のことに話が及ぶと暫し絶句され、目頭を押さえられた。そして最後に靖国神社のご神符を手にして「靖国神社にお参り下さったことに、戦死された戦友たちと一緒にお礼を言います」とお辞儀された。

(今年8月15日靖国神社での戦没者追悼中央国民集会で)

されたわけですが、その中で何故日本に最も親近感を持ったのでしょうか。イナボ 日本人から教育を受けたからです。勉強、行儀、修身、男であること。それから責任をもて、約束は守れど。私、今でも座るときは姿勢を崩しては座れないんです。これが六十年前の教えです。それらは今でも皆頭に残っているんです。

とりわけ私は男でありたいんです。

日本人の先生は男であるなら、どんな男であるべきかということを教えてくれました。そして軍隊の中で男として鍛えられ身についたことが今日まで続いているわけです。アメリカの統治になってアメリカの学校で英語は習ったけれど、男であること、女であること、つまり人間としてどうあるべきかということとは習った記憶がありません。

男というのは頭は必ずしも良くなくていいんですよ。ただ自分に与えられた義務を成し遂げる、任務を果たすことが男なんです。パラオでは男は魚獲りに、女は芋探しに行く。男は小さいときから男であって、「女みたいね」と言われるものすごくいやなんです。魚が獲れなかったら、銚シラを自分で作ってうんと練習する。男の任務だから。

—— 男らしさは責任と勇気ですね。パラオには昔の日本と共通する価値があったから、日本から受けた教育が

ったり合ったわけですね。

イナボ そう。昔の日本と近いです。今回日本に行くことでも実は同じ日に別の用事がありました。はい」と承知の返事をした後で、その用事のことを思い出した。しかし、もう日本に行くことと約束してしまっただけで、できないのにできるとするのは男じゃない。それでその用事をキャンセルしました。また八月十五日には私の国でも戦争終結のお祭りがあるわけですが、それも十八日にずらしました。こうして私は今回日本に来ました。そう約束したからです。

インドネシア独立とパラオ

—— イナボさんは日本は戦争には負けただけで目的には勝利したとおっしゃってられますが。

イナボ 当時はインドネシアをはじめアジアはどれもヨーロッパ人の植民地でした。それらヨーロッパ人を追放するのが目的だったんです。戦争の結果、皆独立して豊かになった。特に日本はすごく成功しました。どんな戦争も自分の国を榮えさせること、今より良くすることが目的です。日本はそれを達成しました。インドネシアも独立して喜んでいます。インドネシアの独立戦争のとき、日本兵もその手伝いをしてるんですよ。私知っていますよ。そしてそこにはパラオの人もいて、国に帰ら

ずに一緒に戦ったんです。パラオ人と日本人とインドネシア人の三国の人たちが一緒になってオランダと戦ったんです。それで勝ったんです。

——それは初めて聞きました。

**イナボ** 武装解除のとき、日本軍は武器を山でパラオ人に渡したんですよ。連合軍に降伏するのは日本軍で、パラオ人は免れていた。その頃にはインドネシア人はオランダと戦争する空気がしたから、それで日本軍は武器をパラオ人に渡して、それをインドネシア人に渡すよう言いました。

戦争の話はつらい話です。パラオでは米軍の空襲でたくさん日本人の戦友が戦死しました。血と泥にまみれて途切れた声で「天皇陛下万歳」「おかあさん」と言つて死んでいったのです。今でも聞こえるような気がします。それで私が現地の人間なので「イナボさん、いずれ戦争は終わります。そのときに、日本に来るようなことがあります。したら、靖國神社にお参りにきてください。」そういつて、死を覚悟して戦友たちは戦い、死んでいきました。私はそのとき十九歳でしたが、今日までその出来事はずっと頭を離れたことがありません。

戦争が済んで、三十年経つてはじめて靖國神社に参拝する願いがかないました。ところが、今、日本では総理大臣

が靖國神社にお参りすることを反対していることをききました。とても悲しいです。何で自分の国のために短い人生を、命を捧げた人たちを大事にしないのですか。日本が負けたからですか。勝った側に付いて日本の国のために死んだ方を大事にしない人は卑怯です。

私、日本の雑誌を一ヶ月遅れで読んでいますけれどね、今の日本の政治家は男としてあまりにも舌が軽すぎます。補償だとか講和条約で済んだ昔のことを今になって何でわざわざ持ち出していうんですか。不信と反感を生むだけじゃないですか。男らしい男は黙っているんですよ。

《ここで、イナボさんは大きくため息をつかれた。「つらい戦争の話は精神を振り絞つて話す」とも言われたが、そのせいだろうか。》

**イナボ** 私はコロール州のチーフだったんですよ。昔からの酋長ね。私の島の人たちにはこういう習慣で地位に就いた人は信頼されます。なぜかという、世襲だから責任感が強いし、嘘を言わないから。選挙で選ばれる政治家は選挙の度に嘘を言います。

——貴族院みたいなものですね。

**イナボ** 私の国の政治家は選挙で入った人と貴族で入った人というわけですから、つまり嘘を言う人と言わない人と(笑)。今の日本が頼りないことはまだあり

ます。ある日本人に「自衛隊をどう思いますか」と聞いた。すると、「あれはサラリーマンだ」という。心細い話です。悲しい話ですよ。何かあるときには自衛隊の隊員は死んじゃうんですよ。彼らは毎日命をかけて訓練しているんです。それをサラリーマンだなんて

## ルーンはまだ残っている

今の日本人はよく「もう戦争はこりごりだ」と言っています。それでもいざというときの根っこはまだ残っています。日本が戦争に負けたのは物量の不足のせいで、精神ではアメリカに負けてなかった。だから戦後、短期間でこんなすごい国になったんです。日本の映画を見ると、例えば失恋すると死ぬか生きるかといった感じで悩みます。アメリカの映画はそこまで悩ましい。日本では子供が入学試験に落ちたり、いじめられたりしたら自殺するでしょう。ものすごくこたえるんですよ、命に関わるくらい。これはどこの国にもありません。それからバブル崩壊で会社が倒産して社長さんが自殺することがあるでしょう。

——責任感ですね。自分に引き受けるといふこと。

**イナボ** そうです。責任感です。アメリカ人だったら夜逃げするよ(笑)。日本はまだルーツ、メンタリティが残っ

ている。日本の姿はあなた方日本人よりも、むしろ外国にいる私たちによく見えることがあるわけです。だからまた戦争が始まったらきっと日本人は戦いますよ。例えば日本とロシアはまだ平和条約をむすんでない。ということはまだ戦闘状態と同じです。明日からでも戦争を始める可能性はありますよ。戦争は昔話ではありません。今でも世界のあちこちで起つてだれかが死んでいる。誰だって戦争はしたくないけど、戦わざるをえないときがあるんです。日本だってまだあるんですよ。

福岡で博多山笠のお祭りのビデオを見ました。そこに出てくる若者たちは大和魂を失っていない本当の日本人です。アメリカを恐れさせた日本の兵隊さんと同じ表情をしていました。こういうところに日本人の魂は残っているんです。ですから、このお祭りは大切にしてほしいです。

——最後に一言お願いします。

**イナボ** パラオに日本人が来ると、何を売りに来たんだらうかと思えます。今の日本人を見ていると、モノを売ることばかりで心を伝えない。心の教育はやっていないんです。だから今年、名古屋、福岡、東京を訪問して皆さん方と初めて会いました。とっても大事な出会いでした。頑張つて下さい。(平成七年八月十五日取材 文責編集部)